

コラム: 県農業局の自己資金による持続的なEVAP普及パッケージ活動の始動

1) 第1サイクル県農業局の自己資金によるEVAP普及パッケージの活動開始

活動開始2年目になるジェリコ県農業局は、自己資金によるEVAP普及パッケージ対象の農家グループを選定した。その後、ジェリコ県農業局普及員がFacebookを通じてその活動を紹介したところ、それに触発されてナブルス県農業局およびトウバス県農業局も、自己資金によるEVAP普及パッケージ対象の農家グループの選定を開始した。これらの活動の結果、2018年4月末時点では、第1サイクル県農業局では、全部で以下の5グループが選定された。

- Auja Farmers Extension Group(ジェリコ県)
- Marj Na'jeh Farmer Extension Group(ジェリコ県)
- Beit Hassan Farmer Extension Group(ナブルス県)
- Jama'een Farmer Extension Group(ナブルス県)
- Ein Baida Farmer Extension Group(トウバス県)



ジェリコ県農業局が自己資金で実施した対象農家グループの選定に係るワークショップ

これまでのプロジェクトからの働きかけにより、これらのEVAP普及パッケージの活用は年間普及計画に盛り込まれており、関連予算の一部も確保されている。県農業局の自主性を尊重しつつ、プロジェクトからは必要な場合のみ技術的な支援を行うが、資金的な支援は行わない方針である。

2) 第2サイクル県農業局におけるプロジェクト対象外の農家グループに対するEVAP普及パッケージの活動開始

第2サイクル県農業局は、プロジェクト対象の農家グループ(各県農業局で2グループずつ)以外にも、EVAP普及パッケージ対象の農家グループの選定を独自に開始した。これまでに2県の農業局で農家グループの選定が終わっており、以下の6グループが選定された。

- Jensafot Women Extension Group(カルキリヤ県)
- Qalqilia Farmer Extension Group(カルキリヤ県)
- Ateel Women Extension Group(カルキリヤ県)
- Thenabeh Farmer Extension Group(トゥルカレム県)
- Al-Jalameh Farmer Extension Group(トゥルカレム県)
- Al-Jalameh Women Extension Group(トゥルカレム県)



EVAP普及パッケージ活用の方針について
カルキリヤ県農業局長が独自に開催した会議

3) パレスチナの普及員の役割の変化と能力向上の方向性

これまでの活動を通じて、「農家が求めるパレスチナ政府の普及員の役割」と、「パレスチナ政府の普及活動の方向性」が一致していないことが伺えた。パレスチナの農家の栽培技術は比較的高いため、栽培・飼育技術以外に、これまでとは異なる技術分野にまでニーズが広がっている。例えば、マーケティング(市場情報の分析、販売方法)、情報を活用した営農計画策定、営農記録、トレーダーとの交渉術、収穫後処理などである。これまで普及員は、栽培・飼育技術をトップダウンで伝えることに活動の重点を置いてきた。しかし、今後は、農家ごとに不足している技術を的確に把握し、改善技術を農家の立場に立って伝えること(相談機能)が、重要になってくると考えられる(日本の普及の現場も同様の傾向にあるといわれている)。プロジェクトでは、普及員の役割の変化を踏まえつつ、技術内容や普及理念・方法を検討し、農家のニーズに合致した普及員の能力向上を図っていく方針である。農家のニーズと普及活動の方向性が一致すると普及の目的も明確になり、普及員がより自発的に動くようになると考えられる。まずは、プロジェクトでは普及員がその変化に気づく場を提供していきたいと考えている。



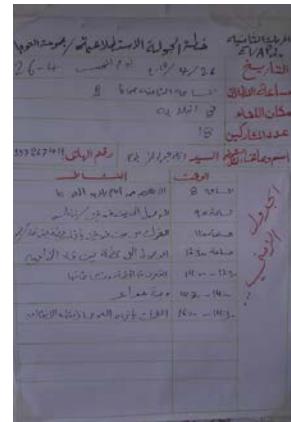
農家に不足している技術の一つである営農記録についての技術研修を行なうトゥルカレム県農業局普及員

① 第1サイクル県農業局の自己資金によるEVAP普及パッケージの活動

1) ジエリコ県農業局の自己資金による2年目活動: 普及ステップ1:

Willingness and Readiness Confirmationの実施(2018/4/2)

ジエリコ県農業局は独自に計画を立て、自己資金を使って、普及ステップ1: Willingness and Readiness Confirmation を開始し、普及対象とする農家グループを選定した。これまでプロジェクト活動に積極的に参加してきたジエリコ県農業局普及員 Mr. Ali Shakhshir がファシリテーターとなり、農家グループにヒアリングを実施した。その結果、畜産農家グループである Auja Farmers Extension Group が普及の対象として選定された。プロジェクトからはこの活動に対して、何の支援も行わなかった。



2) ジエリコ県農業局の自己資金による2年目活動: 普及ステップ2: Awareness Creation

Tourのための参加型計画ワークショップの実施(2018/4/9)

ジエリコ県農業局は独自に選定した Auja Farmers Extension Group を対象とした普及ステップ2: Awareness Creation Tour のための参加型計画ワークショップを実施した。ファシリテーターを担当したジエリコ県農業局普及員 Mr. Ali Shakhshir は、プロジェクトが作成した教材とフォームを活用しながら、農家のニーズを聞き出し、農家参加型で視察ツアーの計画(右写真)をまとめた。普及ステップ1と同様、プロジェクトからは何の支援も行わなかった。

② 第2サイクル対象県農業局に対する普及ステップ5: Farm Record Keeping for Profitability Improvement のためのプレトレーニングガイダンスの実施

普及ステップ5では、Farm Record Keeping for Profitability Improvement を実施する。そのため、カルキリヤ県農業局(2018/4/8)、トゥルカレム県農業局(2018/4/9)、ジェニン県農業局(2018/4/10)において、農家向け研修のファシリテーターとなる職員を対象に、研修実施手順に係る説明を行った。



カルキリヤ県農業局



トゥルカレム県農業局



ジェニン県農業局

Farm Record Keeping for Profitability Improvement の研修の内容

1) 目的

- Financial Record (農業収支記録)および Farm Practice Record(農作業記録)により、儲かる作物や営農体系の選択・継続ができるようにすること
- 費用がかかりすぎている費目の特定等、営農における課題が的確に把握できること

2) コンセプト

- 「なぜ営農記録が必要なのか」明確に示し、必要性を認識してもらう。
- 営農記録は栽培技術と異なり、農家のレベルによって、記録が続けられる農家とそうでない農家がはつきり分かれる技術分野と考えられるため、簡易版と詳細版の2段階の記録方法を開発し、農家が選択できるようにした。
- 本プロジェクトのベースラインデータおよびエンドラインデータとしても活用できる営農記録の方法とした。

3) その他配慮したポイント

- パレスチナで自発的に営農記録をついている農家にヒアリングを行い、その目的、記録方法、その結果を何に活用しているか等を調査し、教材開発の参考とした。その結果、パレスチナの農家の営農記録の目的は、主に以下の2点であった。
 - 農業収支記録: その年の複数の作物の収益性を金額で比較することで、収益性の高いものを次の年に継続・拡大し、収益性の低いものの面積を減らしたり、生産をやめたりするため



- ② 農作業記録：収益が多かった作期の農作業記録に基づいて次作期も同じ農作業を繰り返すことができるようするため（特に種苗の発注や農業機械・労働者の確保を前もって確実にできるようするため）
- 持続性の観点から、簡易版は市販のノートだけで記録ができる方法とした（Field Notebook は市販の手帳と同じ）。

③ 第2サイクル農家グループに対する普及ステップ 5: Farm Record Keeping for Profitability Improvement の実施

プレトレーニングガイダンスに参加した県農業局普及員がファシリテーターとなり、対象農家グループに対する普及ステップ 5: Farm Record Keeping for Profitability Improvement を実施した。参加した農家からの主なコメントは以下のとおりであった。

- 作物ごとの収益性が数字でわかり、作物間の収益性の比較ができることが営農記録のベネフィットであると認識した。その結果を活かして、収益性の低い作物をやめて、収益性の高い作物に変えていきたい。
- 購入した農業資材の記録をつけることで、資材業者にだまされないようになるだろう。
- 毎年営農記録をつけることで、最適な農薬散布や施肥のタイミングを見つけ出すことができ、翌年の営農計画の役に立つだろう。
- 収益が高い年があれば、その年の営農活動はベストプラクティスなので、その記録を他のメンバーにも共有することができる。



Qalqilia Livestock Extension Group
(カルキリヤ県)(2018/4/15)



Al-Izab Farmer Extension Group
(カルキリヤ県)(2018/4/16)



Baqa Al Sharqieh Farmer Group
(トウルカレム県)(2018/4/17)



Saida Cooperative Association for Processing and Marketing of Rural Products
(トウルカレム県)(2018/4/18)



Maithalon and Sanor Farmer Extension Group
(ジェニン県)(2018/4/19)



Qabatiya Farmer Extension Group
(ジェニン県)(2018/4/22)

④ 第2サイクル県農業局の通常の普及活動におけるEVAP普及パッケージの応用

1) カルキリヤ県農業局による Good Practice Farmer 視察ツアーの開催 (2018/3/28)

カルキリヤ県農業局が主体で計画を立て、EVAP 普及パッケージの Awareness Creation Tour を参考にした農家同士の視察ツアーを独自に実施した。



2) カルキリヤ県農業局による支援農家選定に係る会議の開催(2018/4/1)

カルキリヤ県農業局は、プロジェクト対象農家グループ以外に、独自に自己資金でEVAP 普及パッケージの対象とする農家グループを支援する方針を立てた。その結果、Qalqilia 地区と Al-Nabi Elyas 地区の農家グループを選定する方針となった。

3) トウルカレム県農業局による Good Practice Farmer 視察ツアーの開催 (2018/4/2)

トウルカレム県農業局が主体で計画を立て、EVAP 普及パッケージの Awareness Creation Tour を参考にした農家同士の視察ツアーを独自に実施した。



4) ジェニン県農業局による Good Practice Farmer 視察ツアーの開催(2018/4/3)

ジェニン県農業局が主体で計画を立て、EVAP 普及パッケージの Awareness Creation Tour を参考にした農家同士の視察ツアーを独自に実施した。

5) ジェニン県農業局の自己資金での普及活動の対象農家選定にかかるヒアリングの実施(2018/4/17)

ジェニン県農業局は、プロジェクト対象農家グループ以外にも、自己資金でEVAP 普及パッケージを実施する方針をたて、その対象とする農家グループを選定し、農家グループに対するヒアリングを実施した。



6) カルキリヤ県農業局による Good Practice Farmer 視察ツアーの実施(2018/4/24)

カルキリヤ県農業局は、プロジェクト対象の畜産農家グループを対象に、自己資金で視察ツアーを開催した。訪問先は、ジェリコ県の牧草(アルファルファ)生産組合とトウバス県の家畜飼料販売業者であった。カルキリヤ県農業局は、他県の農業局とコミュニケーションをとりながら、円滑に活動を実施した。



7) ジェニン県農業局による Good Practice Farmer 視察ツアーの実施(2018/4/25)

ジェニン県農業局は、ジェリコ県農業局と連携しながら、農家グループを対象とする視察ツアーを自己資金で実施した。これまでほとんど連携が少なかった他県の農業局との技術の共有もみられた(県農業局間の連携強化)。



⑤ 普及員による簡易な現場土壤診断(OSDEX)の試行(2018/4/11)

プロジェクトで導入を試みている普及員による簡易な現場土壤診断(OSDEX)の試行を行った。ナブルス県 Frosh Beit Dajan 地区の農家のトマト栽培圃場において、ナブルス県農業局普及員と土壤分析室技官が参加して、試験的に土壤診断を行った。第 2 期においては、本活動で得られた知見を、OSDEX の仕組み構築に活用していく方針である。